

# 高齢者の生きがいとなる地域社会における福祉活動に関する研究 -サロン活動が高齢者の人間関係のネットワーク構築に与える影響の分析から-

森 常人

世界一の高齢社会でとなっているわが国であるが、こんにちの地域社会は住民同士の同質性や課題の共有性の喪失傾向が指摘されており、一方で、そのようななかであるが、地域社会のなかでの住民や住民組織による互助的機能の活用に地域福祉は期待を寄せている。これは高齢者福祉においても同様であり、地域社会のなかで高齢者のための福祉活動に取り組もうとするわが国の流れがある。

本論文では、高齢者ができ得る限りの在宅での生活の継続を求める現状を踏まえ、変化する地域社会のなかで、日常的な生活において生きがいを持った生活を営むために必要とされる要件を高齢者の生活実態とモラルとの関係から明らかにし、また、そこで得られた知見を地域社会に還元するための方策を示すことを試みた。

本論文での主な成果は以下の点である。

まず1点目であるが、既存研究で明らかにされていた高齢者とモラルとの明確な相関は、「家族関係」「健康度」「社会経済地位」についてであり、これまでの老年社会学における既存研究では、高齢者の人間関係とモラルの相関は、主として家族関係の強化により示されていた。

これらの踏まえ、本論文では、京都市内に在住する在宅高齢者に対してモラルと生活実態の関係についての調査を行ったところ、モラルが高齢者の「家族関係以外の人間関係やネットワーク」によっても高まる可能性を「①友人づきあいの程度とモラルの相関」「②近所づきあいの程度とモラルの相関」ならびに、「③困ったときに助けてくれる人数というサポートネットワーク（以下：SN）とモラルの関係」という3つの要因から導き出した。また、高齢者のなかでも後期高齢者の段階では、地域社会のなかでの人間関係やネットワークの充実が、モラルを高める要因であることも同様の調査データから見出した。

つぎに2点目であるが、これらの結果を踏まえ、地域社会のなかで人間関係を創出ならびに発展させることを目的とした取り組みである「サロン活動」の事例調査することで、地域社会のなかで人間関係やネットワークを充実させていく方策を提示することを試みた。

サロン活動に参加する高齢者に対してヒアリング調査を行った結果、少なくともサロンへの参加により、地域社会のなかで新たな人間関係が芽生え、そしてまたサロン以外の場所でもその関係は発展していることが明らかになった。また、個人運営型である小地域福祉交流サロンでは参加者がサロン活動への参加を通じて、生きがいを獲得していることについても自身がサロン活動で参与観察することにより明らかになった。

また、3点目として、サロン活動は近年新しく地域社会のなかに芽生えてきた取り組みであり、サロン活動を取り扱った既存研究がほぼ存在しないため、これらの事例調査は新規性のある調査データの蓄積という面において貢献が見られた。

これらを踏まえて、今後必要とされることは、高齢者のためのネットワーク形成や生きがいに貢献する可能性の高いサロン活動を地域社会の中に発生させる、そして地域社会で継続的に根付かせるための政策提言であろう。

本論文ではサロン活動での調査のなかで、サロン活動が抱える運営上の課題をヒアリングを基に「①財源面の安定」「②地域社会の受け入れ体制」の2点として示したが、明確な解決策までは提示できていない。

これらについてはサロン活動の更なる知見の獲得とともに、今後の調査課題であろう。